

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「むかし話をしょうかいしよう」 教材名「かさこじぞう」

2 単元の目標

昔話の言葉や出来事に親しみ、紹介したい昔話の本を選んで読める。場面の様子に着目し、人物の行動を具体的に想像して昔話を紹介できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①昔話の言葉や出来事に親しみ、紹介したい昔話の本を選んで読んでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア・〔知識及び技能〕(3)エ）	①「読むこと」において、場面の様子に着目し、人物の行動を具体的に想像して昔話を紹介している。（C(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

昔話の人物の行動を場面の様子から想像し、話のおもしろさを紹介する。現代の暮らしとは異なる語句を確かめ、なぜその行動をしたのかを前後の出来事と結び付ける。学習指導要領のC(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(3)ア・〔知識及び技能〕(3)エを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

暮らしの語句を教師が図や辞書で説明し、その後で本文の行動を読む。昔話の類話を比較するときは、同じ話の全てが同一表現だと思わず、読んだ本の題名を記録する。おおむね満足できる状況は、場面の様子に着目し、人物の行動を具体的に想像して昔話を紹介しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○読み聞かせを聞き、登場人物や昔の暮らしの語句を確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	3～4	○前半の行動を読み、場面の様子を言葉や図で表す。	知①（語句や内容の整理）
	5～6	○後半の出来事を読み、前半との関係を考える。	学習状況を見て支援する。
	7 （本 時）	○印象に残った行動から想像した様子を伝え合う。	思①（発言・学習記録）
	8～9	○学校図書館などで昔話を読み、紹介する話を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
	10～11	○紹介カードを書き、話のおもしろさを伝える。	学習状況を見て支援する。
第3次	12	○昔話を読んで気付いた言葉や出来事のおもしろさを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (7/12)

(1) 本時の目標

場面の様子に着目し、人物の行動を具体的に想像して昔話を紹介できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この場面で人物がしたことから、どんな様子や思いを想像しましたか。前の出来事とつながるところはありますか」 【めあて】昔話の人物の行動を場面の様子から想像し、話のおもしろさを紹介する。 〈予想される児童の反応〉 ・昔の暮らしの言葉を知ると、行動の様子が浮かぶ。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この場面で人物がしたことから、どんな様子や思いを想像しましたか。前の出来事とつながるところはありますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・昔の暮らしの言葉を知ると、行動の様子が浮かぶ。 ・後の出来事を読むと前の行動が気になる。 ・同じ昔話でも読んだ本によって言い方が異なる。	暮らしの語句を教師が図や辞書で説明し、その後で本文の行動を読む。昔話の類話を比較するときは、同じ話の全てが同一表現だと思わず、読んだ本の題名を記録する。 想定する難しさ：現代の道具や習慣で考えて行動を否定する。よいことをすれば得をするという教訓だけにしない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 場面の様子に着目し、人物の行動を具体的に想像して昔話を紹介している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・同じ昔話でも読んだ本によって言い方が異なる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この場面で人物がしたことから、どんな様子や思いを想像しましたか。前の出来事とつながるところはありますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

